

平成25年度第1回川崎市政策評価委員会 摘録

- 1 開催日時 平成25年7月4日(木) 午前10時00分～11時40分
- 2 開催場所 川崎市役所本庁舎本館3階 総合企画局会議室
- 3 出席者 委員 高千穂委員長、垣内副委員長、生駒委員、川崎委員、野口委員、
安陪委員、長尾委員、松田委員
事務局 総合企画局都市経営部 金子部長
総合企画局都市経営部企画調整課 中村課長
総合企画局都市経営部企画調整課 久万担当課長
総務局行財政改革室 三田村担当課長
財政局財政部財政課 斎藤担当課長
総合企画局都市経営部企画調整課
対馬担当課長、青木担当係長、小西職員

4 議 事

- (1) 平成24年度事務事業総点検及び施策評価の実施結果(案)について
- (2) 各委員による施策評価の検証結果について
- (3) 「政策評価委員会の検証結果」の骨子(案)について
- (4) その他

平成25年度政策評価委員会スケジュール

- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

議事(1) 平成24年度事務事業総点検及び施策評価の実施結果(案)について

高千穂委員長) 事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

川崎委員) 施策課題の評価区分別の評価結果について、Bの評価区分が28件(10.7%)から15件(5.7%)に改善した結果になっているが、改善した理由としてはどういったことが考えられるか。

対馬担当課長) 各施策課題によって内容も異なるので一概に言えない部分があり、一定程度課題の解決がみられたと思われるが、BからAⅡに改善した具体的な理由は、まだ明確にされていない状況もある。

川崎委員) いずれにしても、これは自己点検・自己評価なので、外的な要因で課題が

あったものが取り除かれたのか、自分たちの努力で改善したものなのか、分析してほしい。

議事（２）各委員による施策評価の検証結果について

高千穂委員長）事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。今回は昨年度と違うスキームで検証を行ったので、それに対する意見をいただきたい。

松田委員）今年度は、昨年度の委員の意見を受けて、マニュアルを見直したため、判定がしやすかったというのが率直な感想である。自分の感想として、3つの観点で述べたい。

1点目は、今回は施策課題の各所管課に努力していただき、こちらが指摘した内容を改善してもらったため、成果について具体的なものが明記されるようになり、市民目線で分かりやすくなった。また、マニュアルを見直した結果、昨年度問題になった学識経験者と市民委員の評価判定の相違が減少し、同じ目線で検証できるようになった。

2点目としては、成果・参考資料は具体的になり改善した分、課題について抽象的な表現が目立つようになったと感じる。また、目標に対する成果についても整合性が取れていないものがあつた。

3点目としては、昨年度も述べたが、これだけお金と時間をかけた結果なのだから、従来と同じように区役所の窓口に置くのではなくて、市民に関心をもってもらえるように何か工夫をしてもらいたい。

トータルな感想としては、施策課題の各所管課に努力してもらい、改善が見えたことは一定の評価ができ、内容としても読みやすいものになっている。

長尾委員）資料2-1の1ページ目について、チェックポイントを4つに分けた評価結果が記載されているが、この他にチェックポイントの着眼点が10項目あると思うが、その結果についてもしっかりと記載してほしい。判定区分一覧が掲載されているが、これだけではどう検証し判定したのか読んでも分からない。5ページ目で初めてどうやって検証したのか記載されているが、資料の冒頭に今年度どういう形で検証を行ったのか記載したほうが、読みやすいのではないかと思う。また、今回使用した検証マニュアルについても、検証を行った過程が分かるように公表してほしい。

その他、判定結果分布表の中で各検証項目の判定箇所の合計が240と記載されているが、これも検証対象の120の施策課題を2人で検証したこと

から240になっているということだと思うが、しっかりと補足説明してほしい。

また、基本政策別の判定結果分布表があるが、7つの政策体系の名称が漠然としていて、どういった内容の施策が含まれているのか分からないので、希望としては高齢者や道路、水道に関する事など、少しポイントが分かるように提示してもらえるとより市民に興味を持ってもらえるようになるのではないかと。

また、判定区分がかい離した原因について、検証マニュアルの記載内容等の検証方法自体に起因するものであれば、引き続き検証マニュアルの修正等による取組が必要であると書かれているが、何に起因しているか分析しているのか、それともこれから分析されるのか、お答えいただきたい。

対馬担当課長) 検証マニュアルは、例年冊子の中で報告書と一緒にまとめられている。

また、昨年度からの検証内容の変更点については、最終的に委員意見をまとめる段階で分かりやすく掲載していく予定である。検証マニュアルの分析については、本日の委員会の意見を踏まえて、委員長と相談しながら進めていきたい。その他長尾委員からご指摘いただいた箇所は、委員の意見とりまとめの段階で反映させていきたい。

川崎委員) 率直な感想として、検証マニュアルはよくできていると思う。何が良いかという点、同じ「可」という判定の中でも微妙に点数に差をつけることができるようになった。要改善だが、今後ここを変えれば良くなるということ表現しやすくなっている。

先ほど、政策体系別で「IV環境を守り自然と調和したまちづくり」と「V活力にあふれ躍動するまちづくり」に要改善が多かったという報告があったが、この点は各所管課と話し合ってもらう必要があると思った。環境分野については市民に馴染みが薄いからという発言があったが、簡単に見せていただくとそれほど馴染みが薄いとは感じないので、一言で馴染みが薄いという分析は乱暴かなと思う。一方で、確かに経済の分野は、明らかに中小企業や特許、港湾の話等があり、やや馴染みが薄いかなという印象がある。

高千穂委員長) 全体的に評価区分のブレがなくなったという印象がある。その他、各委員の意見を聞いていて、まだグレーの部分があると思う。それを明らかにするには相対評価などを取り入れることも一つの手である。例えば素晴らしい事例を例示して、それをベンチマークとすれば、比較できるものさしとなり、良し悪しが分かりやすくなる。どうしても、各施策課題によって分野

等が違うので、評価を一刀両断できない部分がある。そういった意味ではものさしとしてのベンチマークは必要だと感じた。そうすれば、自分たちだけの評価でなく他と比べているので、納得性、客観性、公平性が確保できる。

垣内副委員長) マニュアルについては分かりやすくなり、迷うことなく判定できた。一方で、チェックポイントや着眼点に分かれているため、それぞれのパーツで見ると良い判定が出るが、全体として見るとそうではないというようなものもあった。そういった意味で若干甘めに判定がついてしまったかなと感じている。その他、全体的に、異なる施策課題の間で施策の内容が重複している部分があり、気になった。

生駒委員) 本年度の検証作業を行った印象として、昨年度と比べてやりやすくなったと感じた。そのポイントは3つある。

1つ目は、検証マニュアルとチェックシートが改善されたこと。

2つ目は、昨年度自分が担当した施策に対する意見について所管課のコメントが添えられたこと。

3つ目は、過年度の検証を踏まえ、この委員会で議論できたこと。である。

チェックシートについては、本年度は機械的に点数を付けることになり、どういう結果になるか不安があったが、機械的に出た判定結果については概ね納得できるものであった。まず各項目に点数を付け、全体を俯瞰して改善点があればコメントするという流れは、書きやすかった。

昨年度の指摘事項に対する所管課の対応コメントには、対応できる・できない理由が丁寧に記載されており、対応できない旨のコメントにもその背景が付記されていたため、事情が理解できたことは良かった。

昨年度の検証では、委員によっては判定が分かれ、判定する際に何を重視するかということが議論になった。その中で少なくとも「市民に誤解を生じさせないようにしなければならない」ということが重要であるという論点が出されたと記憶しているが、そこに立脚すると検証がしやすくなった。

野口委員) 昨年度の各委員の意見に対する、各所管課の対応コメントはありがたかった。検証マニュアルも見やすくなった。

その他、施策の内容が重なっているという印象があった。昨年度から総括的コメントに入れているが、内容が近い複数の施策がどういった形で連携・協働がなされているのか、どこかに明記してほしいと訴えている。何度も重複している施策が出てきて、評価しづらくなっている。同じような施策であるが、書きぶりが違うだけで評価結果に差が出てきてしまっている。協働や

連携がどうなっているのか、施策同士のネットワーク図のようなものがあると分かりやすいと思った。

また、同じ評価票の中で数値がその年度の総計値で表現されているところと、対前年増減値で表現されているところがあり、数字に関しては統一した書きぶりにしてほしい。例えば、総計の数字で表記して、括弧書きで増減の数字を入れるなど、所管課向けのマニュアルにそういった記載を入れるとより見やすいものになると思った。

本日のレジュメについて、図表が数字で出てきているので、分かりづらい。図やグラフを活用してビジュアル面を意識して分かりやすく作成してほしい。

評価結果の乖離について、チェックポイントごとにどういった乖離が生じているのかしっかりと分析してほしい。

安陪委員) 検証マニュアルが細かいところまで改善されて分かりやすくなった。昨年度の委員の意見に対する、所管課の丁寧なコメントがあったことはありがたかった。今回自分が担当した施策が、市民との協働などであったため、比較的抽象的な表現が目立ったと感じている。その他、目標と成果の記載に整合性が取れていないものがあり、本文中で理解できるように、分かりやすく明記してもらいたいと感じた。

松田委員) 野口委員からお話があった数字の話だが、成果の欄で、事業を行い年度内に新規追加・増加した件数は記載しているが、減少した件数は記載していないものがあった。この書きぶりでは、新規件数を増やすとともに既存のものを継続させることにより総数を増やすことが目的なのか、それともあくまでその年度で新規の件数を増やすことだけが目的なのか、分からない部分がある。自分は環境分野を担当したが、そのような事例が2件ほどあった。そういった意味で目標の設定と成果の検証については、はっきりと記載してほしい。先ほどの話でも出ていた、環境分野について要改善が多いことに対する分析で、市民に馴染みの薄い分野であるという報告があったが、環境分野はごみの問題など市民生活に密着している課題でもあり、馴染みが薄いとは思わないので、もう少し分析してほしい。

高千穂委員長) 色々と意見が出たが、全体的に昨年度のフィードバックを生かしてマニュアル等が分かりやすくなっている。野口委員の意見にもあったが、成果説明で数字を引用する場合は、市民に誤解を招くことのないように注意していただきたい。また、今後、新しい計画を策定する際には、その過程において、政策評価委員会の意見を踏まえたものとしてほしい。

垣内副委員長) 委員間における評価結果のかい離状況について、検証項目(1)での割合が多い。この項目には3つの着眼点があると思うが、どの着眼点にかい離が多いのだろうか。

対馬担当課長) まだ検証していないので、後日お答えしたい。

議事(3)「政策評価委員会の検証結果」の骨子(案)について

高千穂委員長) 事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

長尾委員) まとめの(3)の目標・指標の明確化ということとは異なるが、評価票の中で、課題、目標と成果の各欄に記載されている項目の記載順序が異なってしまっている事例が見られ、検証する過程で対応関係を読みとるのが非常に分かりづらいため、市民に分かりやすさを求める意味でも、書き方を工夫してほしい。

松田委員) 検証結果の骨子の中に、評価結果を市民に浸透させるため、その手法について工夫していくということを大きな課題として記載してほしい。市民にどう分かりやすく伝えていくかということは、次の任期の委員会にも引き継いでいっていただきたいと思っている。

安陪委員) 長尾委員の発言でもあったが、順序立てて目標と成果を見比べることができれば、市民としてはより分かりやすくなり利用価値が上がると思う。

生駒委員) 気になっているポイントとしては、市民目線での分かりやすさをどう向上させるかということと、目標の明確化についての2点である。市民目線での分かりやすさの向上では、人に見てもらおうプレゼンテーション資料としての配慮が幾分必要かなと思う。ただし、施策進行管理・評価票を記載するのに今以上の負担を職員の方にかかるべきではない。現状のように一枚でコンパクトに評価結果を整理することは重要である。その前提のなかでも、少しの配慮で読みやすく、理解しやすい構成になるのではないかと思う。例えば、私が担当した福祉産業の振興では、課題も目標も施策も、大きく4つの軸で書かれている。1つ目は、川崎の目指す福祉製品のあり方・理念を知らせる。2つ目は、実際にモノを創り出す。3つ目は、販売する。4つ目は、さらに広げるための普及や改善を行う。概ねこの軸に従って、何をするのか(施策)、

何を実施したのか（成果）等が記載されてある。流れが明瞭で、読み手としては非常に分かりやすく感じた。施策課題によっては表現しづらいものもあると思うが、ボリュームを増やさなくても、記載の順番や流れに配慮するだけでも見やすさ・理解しやすさは向上すると思う。このような工夫をされてみてはどうかと思った。

目標の明確化の点については継続課題だと感じた。進捗や成果確認のために妥当な目標設定とするように留意する必要があると思う。なお、今回の本委員会の検証対象は、第3期実行計画に基づく施策や目標設定を前提としているため、目標等を修正し難いことは理解している。しかし、次の計画でも現在の評価の仕組みを継続するのであれば、その計画における施策の立案、進捗確認・成果確認に資する妥当な目標の設定については、本委員会での議論を踏まえて反映させていくことも検討してほしい。その他、設定する目標のレベル感にも留意が必要かも知れない。ひとつの例を言えば、起業やベンチャーを育成する施策の目標欄において、国際社会への貢献という目標記載があった。これは最終的に求める目標としては正しいと思うが、一連の施策の進捗や成果を測るための目標としては視点が高すぎるようにも感じる。妥当なレベル感の目標設定といったことも踏まえて次期計画の中で検討をすべきかと思う。

高千穂委員長）自治体も経営資源が限られた中で、どれだけ効率的に評価を行っていくかが課題であるが、現状は、行政内部の説明責任を果たすツールを、市民向けの説明責任のツールとしても使っているのも、どうしても無理がある。市民は詳細な内容を知りたいのではなく結果がどうなったか知りたいのだから、現在の内部評価の資料に市民向けの要素をブレンドしたものを公表していくのが望ましいだろう。しかし、評価の作業にかけられる人手や時間に限りがあるし、そもそもこの政策評価委員会は、市の総合計画に含まれる一部の施策の推進状況について、所管部署自らが評価した結果を審議する場であり、さまざまな制約があるということのを再認識しないといけない。

そういった意味で、(3)に書いてある目標や指標の明確化の推進は、次の計画の中でクリアになっていないとスローガンで終わってしまい、今後も同じような課題を抱えてしまう危険性があるため、こうした一連の課題をしっかりとフィードバックしてほしい。

また、委員が提案したことがどれだけ市民に伝わるかという点については、そもそも川崎市における広報の考え方や媒体・手段にも一定の枠組みがある中で、政策評価委員会の位置づけがどこにあり、どこまで踏み込んだ提言ができるのかをクリアにしないと、われわれが過大な期待を持ち、ギャップを

生じてしまう可能性がある。

長尾委員) この評価の取組を市民に広めることが大事だと思う。高千穂委員長が話していたとおり、市民は事業の詳細を知りたいのではなく、ポイントが分かれば良いと思うので、大事なところを太字にするなり文字を大きくするなり、ビジュアルを重視した資料作りを検討して欲しい。そうしないと学生などの若い人は見てくれないと思う。

川崎委員) P D C A サイクルは継続して行う必要があるが、やはり次の計画に向けて色々と考えていかなければならないと思う。今 1 2 0 の施策をチェックしているが、それを全部読む人はいない。自分が担当した環境や経済分野においては、異なる施策でも最終目標は同じような方向を向いているものがある (C O 2 の削減、ごみの量の減少、雇用の安定など)。それらの 1 つ 1 つに細かく施策レベルで目標を作ることは行政内部では必要だが、市民からするとそこまで求めているので、 C O 2 の量が川崎では減少しているのかなどの情報を市民向けに示すことで説明責任を果たしていくことが大事ではないかと思う。役所的には乱暴に感じると思うが、市民の関心がありそうな指標を提示する形で明確に説明できると市民も興味を持つのではないか。こうしたことを次の計画に向けたメッセージとして入れてほしい。

高千穂委員長) 政策評価委員会の役割は、 P D C A の C ということになるが、フィードバックするときには新しいアプローチがあってもいいと思う。つまり、市の各部署が内部評価として作成した詳細な資料のうち、ここまで示せば市民への説明責任は十分果たしているというお墨付きを政策評価委員会が出すことで、市のほうとしても非常に簡略な市民向け説明が可能となる。それについて広報面で十分な調整を行って公表すれば、委員会で議論されている意見が反映されていくのではないか。第三者委員会である政策評価委員会の役割としてそういった機能を付けてもいいのではないかと思う。